

令和 7 年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	32	学校名	静岡県立清水西高等学校	記載者	山野 良成
------	----	-----	-------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	知力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の授業アンケート項目70%以上 生徒の反応を見ながら授業を進め適切な指導をしている。 目標と評価規準を理解している。 授業内容を理解している。 授業を受けて満足している。 授業に応じて、生徒が個人端末を活用している。 週末課題により、予習や復習を行っている。 	B	B	<p>生徒のアンケートの回答に着目したが、妥当な数値と感じられ、評価としてBが妥当である。アンケート数値が90%だからAと直接結びつけて良いのだろうか。「理解したか」という質問に対する評価だけでよいのか。測定ツールの結果つまり学力指標を含めて評価をすべきではないか。目的に沿った評価項目立てとなるように、アンケート調査の方法等を改善してほしい。</p> <p>「測定ツールの結果を検証し、指導改善に取り組んだ」教員の割合は45.1%(昨年は概ね80%)だった。これは、測定ツールという文言が具体的に結びつかなかったためと考えられる。</p> <p>測定ツールに関し、指導内容がどのように改善したのか、「生徒が」使うことや、「紙媒体からWEB解答」に切り替わることを明記すべきである。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 英検受験50人、料理検定等受験20人、漢字検定受験30人 			B

<p>体力の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1、2年生新体力テスト記録の伸び率50%以上(春から秋) ・ 新体力テスト記録会総合評価平均点(R6男子4.131女子3.946)の向上 ・ 体育やスポーツ及び心身の健康に関する意識の向上を実感する割合80%以上 	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>「伸び率」という表現よりも「(記録が)伸びた人の割合」と表記すべきだ。</p> <p>「意識の向上を実感」とはアンケートの回答か。そもそも体力の向上の必要性を生徒に対してどのように説明しているか。</p>
<p>心力の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 芸術における生徒の授業アンケート 授業への満足度70%以上 ・ 生徒アンケート 芸術鑑賞の満足度85%以上 	<p>A</p>	<p>A</p>	<p>成果目標では「満足度」を掲げ、アンケート調査では「関心」を訊いている。結果が一致するのか疑問である。「達成度」となるべきではないか。定量的な指標の測定は難しい。「満足度」を調査することで十分だと考えられる。</p> <p>「音楽の授業を通して」調査をしたが、対象者が絞られてしまい、美術、書道の選択者は除外されてしまうのは適切ではない。</p> <p>項目の見直しが必要ではないか。</p>
<p>心力の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 読書記録を取り、推薦本を選びビブリオバトルで発表する。 ・ 2か月に1冊以上の本やデジタル本等の読書記録をする。 	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>ビブリオバトルを実施していることは素晴らしい取組である。</p> <p>読書することが重要であって、読書記録をすることが目標でなくてよいのではないかと昨年度も申し上げた。</p>
<p>心力の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委員会を中心とした学校全体の取組を実施し、清掃習慣が身についた生徒70%以上を目指す。 ・ 生徒アンケートにより、生活習慣が確立した生徒が学期毎に増加する。 ・ 自分事として捉え、個人端末の振り返りシートに保存し、振り返りをする。 ・ 調査により、朝食摂取率97%以上 治療率80%以上 	<p>A</p>	<p>A</p>	<p>本校は伝統的に清掃活動が盛んである。校舎内土足化による影響や委員会活動に変化はあったか。</p> <p>カジュアルデーの実施について、引き続き検討願いたい。</p> <p>(生活習慣が確立した生徒が)「学期ごとに増加」したことが検証できるようにしてもらいたい。</p> <p>昨年よりも朝食摂取率が低下している。対策が必要である。治療率が高くない。受診を勧めてもらいたい。</p>

イ	グローバルリーダーの育成	<ul style="list-style-type: none"> ・学期の生徒アンケートにより、課題発見力、情報収集力、身につけた知識及び技能を活用する力、課題解決力が向上した生徒80% ・学期の生徒アンケートにより、自己有用感、思いやりの心、コミュニケーション力が高まった生徒70% ・生徒アンケート「学校行事に積極的に参加」90%以上 ・生徒意見に対する検討率100% 	A	A	<p>目標と実践が対応しており、課題の発見力につながる取組でもあるので、引き続きお願いしたい。昨年度よりも「ともえタイム」についての取組の努力が伺えた。</p> <p>生徒の意見がどれくらいあったのか実態の把握をお願いしたい。目安箱があることはよい。意見の実現化までのフローが整うと面白そうだ。生徒の意見から実現したことがあればなおよい。</p>
ウ	教職員相互及び地域との連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭、探究活動、探究発表会において、委員から生徒への指導助言をいただく機会とする。 ・文化祭での学校説明会、一日体験入学、オープンスクールの参加者数が前年度以上 ・アンケートにより、学校が情報提供を適切に行っていると回答する保護者70%以上 ・不祥事根絶及び体罰0 	A	A	<p>探究活動は、グローバル・ハイスクールの取組から5年が経過し、順次改善してきていると思われる。</p>
エ	教育環境整備の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・学期毎に実施する施設設備点検の不具合改善率100% ・困り感を持つ生徒、支援を必要とする生徒への適切な対応により、欠課不良の生徒に対するチーム支援をする。 	A	A	<p>学期ごとに対応すべきことなのか。逐次或いは年間通じて改善すべきものもあるのではないか。</p> <p>「(スタディーサポートの)有効活用に至らなかった」が評価Aということに違和感がある。学習状況調査で悩みがある生徒を拾い出して、教育相談につなげる段階までには至っていないという意味であることは理解できる。</p>

様式第5号

		<ul style="list-style-type: none"> ・予算執行状況を毎月確認し、定期的に予算編成の見直しを行う。 ・安全・安心な施設の整備のために、法定点検での不備指摘前年比10%減 ・検査における文書指示事項なし 	A	A	特になし。
オ	ワークライフバランスの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・1分掌1業務改善の実施 ・勤務時間管理システム毎月の集計後、対象者に実施する。 ・退庁時間遵守の職員80%以上 ・休暇取得率100% 	A	A	休暇取得率の定義は何か。有給休暇5日間を全員取得できているのか。労働基準法の問題もある。